

新デザインコンセプトを EMO Hannover 2013 にて世界初公開

森精機製作所とギルデマイスター社 (DMG)は、2013年9月16日(月)からドイツで開催されている金属加工の国際見本市 EMO Hannover 2013 にて両社で統一した15台の新デザインコンセプトの機械を世界初公開しました。

森精機製作所は2009年からギルデマイスター社(DMG)と業務提携を開始し、各分野において連携を継続・強化してまいりました。2013年10月1日(火)から社名を両社とも「DMG 森精機(「DMG MORI SEIKI」)」に変更し、共同開発を一層進めていきます。機能性や使いやすさ、耐久性を進化させた新デザインは両社の統一感が一目で分かるものとなります。

新デザインコンセプトはオペレーターを最優先に考えて設計されました。窓のサイズを大きくし、視認性を最大限に向上させました。このため高精度が求められる加工などの加工工程をしっかりと確認しながら作業を進めていただけ、干渉などのミスを未然に防ぐことが可能です。また、機械正面には機械の稼働状況が一目で分かるライトラインを標準装備しています。万が一、加工中にトラブルが発生してもライトの色ですぐに気が付き、早急に対処することが可能になります。カバーは丸みをおびたR形状にすることでデザイン性だけでなく、安全性も確保しました。

さらに操作パネルには森精機製作所とギルデマイスター社 (DMG)両社で新開発した CELOS を採用しています。ディスプレイにはワイドな21.5インチと15.6インチのタッチパネルを採用し、機械の操作状況に応じてボタン表示を切替可能など、操作性を従来タイプの操作パネルよりも格段に向上させました。また、早送り、送りオーバーライドやマニュアルパルスハンドルなどの機械式スイッチは操作性とデザインを追求し金型から自社開発しました。

10年、20年と長く使っていただく工作機械を、外観も綺麗な状態で使い続けていただくためにカバーの耐久性も向上させました。高品質な微細構造を採用し、傷や破損に対する保護力の向上を達成しました。また、新デザインコンセプトについてはブラック仕様またはホワイト仕様のいずれかを選択いただけます。

この他にも旋盤のタレットのステーション番号銘板を見やすい様に工夫するなど、細部までこだわり、オペレーターの方がずっと使い続けたいと感じていただけるデザインとなっています。今回公開した新デザインの機械は生産体制を順次整え、2014年4月以降に発売を開始する予定です。

森精機製作所は、今後もより多くのお客様の生産現場を支えるべく、製品ラインアップを充実させ市場へ投入してまいります。



写真1. NLX2500/500 (ホワイト仕様)



写真2. NLX3000MC/1250 (ブラック仕様)



写真3. DMU 80 P duoBLOCK® (ブラック仕様)



写真4. DMC 650 V (ホワイト仕様)